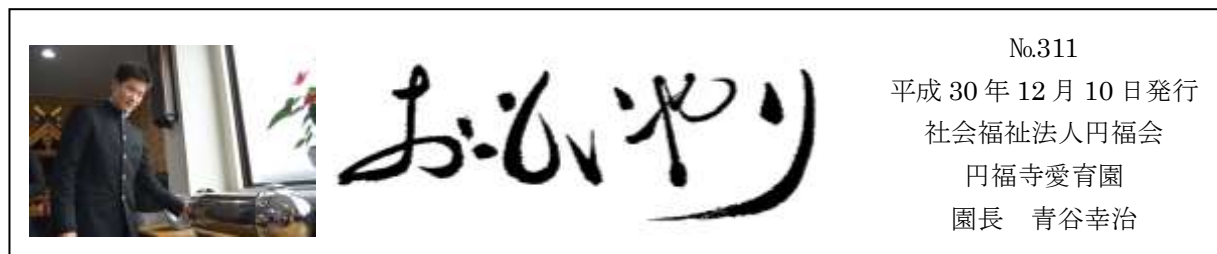


<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

創立 70 周年記念式典でタイムカプセルの寄贈を行い、10 年後の自分に手紙を書きました。



創立七十周年主催者あいさつ

理事長 藤本光世

本日は、ご多用の中を県こども家庭課子ども支援幹塚田様 松本児童相談所長角田様 佐久児童相談所長宮沢様 中央児童相談所課長山室様 はじめ大勢のご来賓の皆さまをお迎えして、円福寺愛育園創立七十周年記念式典を 快晴の晴天に恵まれて挙行できますことは、この上ない喜びであります。

まことにありがとうございました。

円福寺愛育園は終戦後上野駅に屯していた戦災孤児を憐れんだ圓福寺住職藤本幸邦おっちゃんが、三名の子を自坊に連れて来て始まりました。七十年間で育てた子どもたちは六百名を超えます。

戦後社会が大きく変化して、社会の問題も変わって、措置理由は変わりました。そして児童養護施設を取り巻く環境も時代とともに変化しました。

初代園長藤本幸邦おっちゃんが創立五十周年を迎えたのは八十八歳の時でした。おっちゃんは五十周年記念誌「大きな家族」に児童養護施設を三つの時代に分けて分析しています。

一 助け合って生きた救済の時代 二 課題を残した福祉時代 三 社会に踏み出した教育時代と

戦後おっちゃんとおかあさんが力を合わせて子どもたちを育てた時代は、助け合って生きた救済の時代でした。本日おいでになっているふるさとの会の皆様はそのことをよくご存じだと思います。しかし、私が平成二十年にこの仕事を引き継いだ時、愛育園が存亡の危機ともいえる大混乱に陥っていたのは、当に福祉時代の課題が恐ろしい悪魔となって襲い掛かったからでした。今、はっきりとそのことを申し上げられます。

全国の他の児童養護施設はどうだったのでしょうか。長野県の他の児童養護施設はどうだったのでしょうか。これは円福寺愛育園だけの特異な現象だったのでしょうか。おっちゃんの論文を読むと、これは愛育園だけの問題ではなかった。そして、今も続いている課題と思います。

おっちゃんはこの悪魔は教育的児童養護施設になって社会に進出しなければ退治できないと予言しました。今、私は七十周年のこの日に、円福寺愛育園は教育的児童養護施設として社会に進出していることをはっきりと申し上げたいと思います。

教育的児童養護施設とは、どんな児童養護施設なのでしょうか。それは、子どもたちが夢に向かって毎日を一生懸命過ごし、立派な人間に成長し、自立していく児童養護施設です。そうです、引き受けたす

(平成 30 年 12 月 10 日発行 月刊「円福」508 号付録 昭和 52 年 5 月 25 日第三種郵便物認可)

べての子どもを立派に自立させることこそ、児童養護施設の絶対の使命なのです。子どもにとって立派な人間となって自立することは、子どもたちの最大の、最高の、最重要の権利ではないでしょうか。児童養護施設はこの権利を保障しなければなりません。

日本を美しくする会の会長の鍵山秀三郎氏は、どんな人間でも、口では私なんてどうなってもいい人間よと言っている人でも、人並み以下で人生を送っていいと思っている人は一人もいない。できたら人並みに、できることなら人並み以上になりたいという気持ちを強く持っていると話されました。

その通りなのです。児童養護施設の子も、誰もがそう思っています。その願いをかなえてあげることこそ、最重要の子どもの権利の保障ではないでしょうか。愛育園に入所した児童が短期間で劇的に変化する様子は、本当に驚くほどです。顔つきが美しくなります。笑顔があふれます。奇跡とも言えるくらいです。私はその姿を見て感動します。本当に嬉しくなって叫びたいです。子どもたちみんな大好きだよと。七十周年記念誌に子どもたちの作文を掲載しました。ほとんどの児童が将来は困っている人を助けて人の役に立てて頑張る人になりたいと書いています。ぜひご一読ください。これはたいへんなことです。凄いことです。子どもたちの作文を読んで涙が出るほど感動します。その裏にある職員の子どもへの支援に感動します。ここに事実としておっちゃんが願った世のため人のために尽くす子どもたちが生まれているのです。それは教育的児童養護施設そのものではないでしょうか。

社会は、個人の権利が優先し、自分さえ良ければ他人はどうなっても良いという風潮がさまざまな問題を引き起こしています。そこに、世のため人のために尽くすことが本当の幸せであることを愛育園の生活を通して身に沁みて知っている子どもたちが進出するのです。それが、児童養護施設が社会に進出することであります。私はここで円福寺愛育園のこれからをはっきりと宣言したいと思います。教育的児童養護施設として社会に進出することを。

本日、ご参会の皆さまにおかれましては、円福寺愛育園の将来を温かく包んでいただきたいと思います。子どもたちの未来を温かく包んでいただきたいと思います。これからも、円福寺愛育園をよろしくお願い申し上げまして、主催者の挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

平成三十年十一月十一日

社会福祉法人円福会 理事長 藤本光世

創立 70 周年記念式典を終えて

園長 青谷幸治

11 月 11 日、当園創立 70 周年記念式典を無事終えることができました。総勢約 200 名の方にご出席していただき盛大に行うことができました。今回、この記念式典を盛り上げ成功させることと愛育園の伝統や精神、そして今の子供たちの表情や振る舞いを児童を通して今一度、社会の方々に理解してほしい、そんな願いもあり児童がそれぞれの役割を果たし、職員と児童と一緒に作り上げる記念式典を目指しました。年間通して行事も多く、子どもたちは行事の企画から準備、片付けまで誰一人として欠けること

<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

なく取り組めることが自慢です。大きな行事であっても子どもたちがどう動けばいいか、何をすればいいのか心得ているので、今回の式典も何の心配もなく、そして何のトラブルも起きないことは当然でした。駐車場係、来賓の方の案内係、暗幕係、中高生、職員全員で祝宴の準備などそれぞれの持ち場を責任もって取り組み、限りある時間の中でやりきる力をつけたような気がします。タイムスケジュールも時間通りでした。約3週間をかけて行ってきた扇子による演舞（ステージ発表）の練習も全員が成功させたいという一心で取り組み、本番では出席者の前で感動を与えることができました。それ以上に子どもたちのやり切った満足感と自信になったと思います。子どもたちが、普段かかわりのない方々を前にしても堂々とした姿に子どもの成長を感じました。小学生は中高生のかっこいい姿を見て、うずうずしていたのでしょう。式典後の片付けでは、小学生全員も一緒になって取り組んでいました。これも集団のメリットであり、人のために自ら進んで行動できる自然な形で身につけているなど感心しました。

今回の式典には、この2～3年の間に卒園した児童が5名出席してくれたことも職員にとっても児童にとっても嬉しいことでした。今まで当園の養育環境が整わなかったこともあり、卒園生と施設の縁を作っていくことができずにいました。これは私自身の反省でもありました。しかし着実に愛育園の養育環境が整い、児童の心を作り、成長させることができれば変わると信じてきました。今年からは卒園後のアフターケアにも力を入れてきました。その甲斐もあり、卒園後も愛育園に愛着を持ち園内の行事に参加したり、何かあれば相談できる。そんな形ができてきました。式典ではお客さんではなく、職員、児童と一緒に準備から片付けまで取り組んでくれました。私の中では、この5人の卒業生から新たにふるさとの会を立ち上げ、将来の愛育園をバックアップできる会にしていきたいと思いました。社会に出て数年ではありますが、それぞれが自立し、成長した姿をみれたことで私たち職員が児童の自立、養育に力を入れ続けて良かった、間違っていなかったと確信することもできました。そして、誰よりも卒園生の姿に刺激を受けたのは高校生でした。高校生の目の輝きや日々の取り組みの変化にも驚いています。記念式典の成功と卒園生の成長、そして行事を通して子どもたちが自信をつけたことを誇りに思います。次は創立100周年に向けて、また一步踏み出していきたいと思っています。

創立70周年記念式典にご出席していただいた方々、そして愛育園の児童を支援していただいている全ての方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

円福寺愛育園創立70周年

主任保育士 石崎 早織

円福寺愛育園創立70周年おめでとうございます。私が円福寺愛育園に来たのは今から11年前にな

(平成30年12月10日発行 月刊「円福」508号付録 昭和52年5月25日第三種郵便物認可)

ります。この11年間の間だけでもたくさんの方々に支えられているおかげで、子どもたちも日々安心して生活できていることに心から感謝申し上げます。

この70周年も迎えるにあたり、円福寺愛育園の歴史を理事長先生からお話を伺い、また初代園長先生が築き上げてきたものや、これからの円福寺愛育園に対する思いを聞き、今の現状で満足してはいけないこと、もっともっと養育の質を上げ、子供たちにたくさんの経験をさせ、生きていく力をつけさせることが今私たちの使命なのだと改めて思っております。職員は70周年を迎えるにあたり、このようにたくさんの思いを含め、式典の準備を行っておりますが、その気持ちは子供たちも一緒だと思っています。現在11月11日の式典に向け準備を進めておりますが、式典の中で子供たちが発表する時間をいただきました。どんなことをしたら来ていただいた皆様に喜んでいただけるか、また一番は子供たちの成長がどんな発表だったら伝わるのかを考え、以前愛育園運動会でもやった扇子を使った演舞を中高生の発表として行うことに決めました。この演舞はみんなの心を一つにしないと素敵な物はできません。一人一人の動きや扇子の動かし方がとても重要になってきます。現在部活をやっている子供が多く、なかなか全員揃っての練習は難しいですが、当日来ていただいた皆様に喜んでもらいたい！！という思いで子供たちも一生懸命練習しております。その思いが皆様に届くことを願い、当日は精一杯練習の成果を出したいと思っております。またもう一つの取り組みとして70周年の記念制作としてタイムカプセルを行うことになりました。このタイムカプセルには10年後の自分に宛てた手紙を入れます。この取り組みを子供たちに伝えたとき、10年後の自分に何を書こうか悩んでいる子供もいましたが、なかなか経験できることではないことや、10年後の自分にどんなことを聞いてみたいか、今将来の夢がある子はその夢が叶えられているのか、それとも違う道を見つけ頑張っているのか・・・等、どんなことでも書いていいことを伝えると、10年後の自分を想像しながら一生懸命書いていました。その姿がとても可愛らしかったことや、きらきらした目で「先生～私10年後は19歳だよ～」と未来に希望を持っている姿を見てとてもいい経験になっていることを嬉しく思いました。こうして70周年式典に向け、全員が色々な思いを持ち当日を迎えようとしております。数年前の愛育園の様子では考えられなかった姿だと思います。10年後に手紙を書くということも、もしかしたら昔であれば、取り組めなかったのではないのでしょうか。今こうして「やるよ！」と声をかけた時みんなが同じ方向を向いて取り組めるのも子供たちの心が成長してきたこと、そして何より愛育園が大好きだからだと思います。今回70周年という記念すべき年に円福寺愛育園で働かせていただいていることに感謝する共に、これからも子供たちの成長の手助けをしていきたいと思っております。

円福寺愛育園創立70周年に寄せて

主任指導員 富沢正樹

愛育園に勤めさせていただき8年目を迎えました。5年前の65周年式典、3年前の初代園長の七回忌法要と、節目となる年には、それまで自分を振り返る機会を頂いております。

<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

この度の70周年という節目に於いても同様で、子供たちの養育、成長のみならず、自分自身の成長は如何ほどかを問う機会となっております。「自分で人生を切り開く」という事は、容易ではありません。自信をもって「よしやるぞ!」という所からスタートでは無く、自信が無くて、何かをやってみようと思わない所からスタートなので、前向きな気持ちになる為には、子供たちと関わる私たち大人の生き方が問われるという事を痛切に感じています。どれだけ子供たちに寄り添って、どんな思いで、本当の事は何なのかを一緒に考えて考えて、その繰り返しの中で、ちょっとの成長や変化を喜んで共有して、少しずつ自信をつけて、自立の力をつけていく事は、本気にならないとできない事です。だから、私は自分自身に問います。過去本気で生きてきたか、今本気で生きているか。子供たちに対して本気で関わっていく事では、子供たちが前向きになり、自立を目指そうと思わない。という事子供たちから教えられて以降、あれこれ子供たちに言う前に自分自身が本気で生きているかどうかを常に問うようになりました。私はこれを子供たちからもらった宝物だと思っています。

70周年記念の節目にあたって、身の引き締まる思いしております。これからも子供たち共に自立へ向けた歩みを続けていきたいと思っております。

円福寺愛育園創立70周年に寄せて

調理主任 伊藤 慈子

今年、円福寺愛育園は創立70周年を迎えます。この間、たくさんの子供たちが居て、たくさんの職員や、たくさんの方々が携わったことでしょう。いろいろな事があり、それらを乗り越えてきたからこそ今の素晴らしい愛育園があるのだと思います。そんな記念すべきお祝いの時に勤務させて頂いていることを、感謝すると共に光栄に思っております。私が、円福寺愛育園に勤めさせて頂くようになったのは、5年前のことです。当時園長先生であられた理事長先生よりお話を頂き、結婚を機に退職して以来でしたので14年ぶりの社会復帰だったことを覚えています。調理の仕事だけでなく、子供たちのことなど覚えることがたくさんあり、体力が衰えていたので慣れるまでとても時間がかかりました。

愛育園での食事は、みんなで揃って食卓を囲み、テーブルごとで汁物と御飯を盛り、食前・食後の挨拶と共に『いただきます』『ごちそうさま』を、全員声に出してして言っています。家庭的な雰囲気を大切にしていました。また、箸を上手に使うこと、残食が無いことに、私はびっくりしました。子供たちは、嫌いなものがあったとしても、保育士の声掛けや、みんなも食べている、みんなで食べるとおいしい、作ってもらうこと、食べられることに感謝できる子達だから、残さず食べられるのだと思いました。

また、自立の一環として、高校生女兒による、毎日のお弁当作り当番があります。『とんとんキッチン』と初代園長先生が名付けられた、お弁当作り専用キッチンで、毎朝5時半から6時20分までという短い時間で作ります。調理や盛り付け、片付け、みんなのために尽くす、それを交代で協力して続けていく、子供たちにとって素晴らしい経験になります。私達調理の仕事の基本は『毎日3度の食事を作

(平成30年12月10日発行 月刊「円福」508号付録 昭和52年5月25日第三種郵便物認可)

り、提供すること』です。初代園長先生ご夫妻が大切にしていた、「料理は愛なり。愛情が不足している子ども達に、せめて温かくて美味しい料理をお腹いっぱい食べさせて、心も体も満たしてあげたい。」という思いを引継ぎ、なるべく手間暇をかけて、手作りのものを出すことを意識しています。旬を感じてもらえるよう季節の食材を取り入れ、様々な調理法で、主食・主菜・副菜・汁物をそろえ、和食・洋食・中華とたくさんのメニューを作ることはもちろんですが、食堂を清潔に保ち、季節の壁面で飾り、家庭的な雰囲気づくりに心掛けています。普段の食事から、郷土食・行事食、特別メニュー、手作りおやつ、外食、調理実習、ホーム食などが、味覚などの五感を刺激し、子ども達の心と体を満たします。またそれらを通して、食べる時の姿勢や食べ方、箸の使い方などの食事のマナーを教えること、すべてが食育に繋がっていると思います。このような素晴らしいことを続けていながら、毎日自分のために頑張っている子ども達に、美味しいご飯を作り食べてもらうために、これからも私達「調理」は精進していきたいと思っております。

創立70周年に寄せて

庶務 高橋 清子

円福寺愛育園創立70周年おめでとうございます。

6月から始まった管理棟・児童棟改修工事もいよいよ終盤に差し掛かっています。毎日様々な業者さんが入り、愛育園のために、子どもたちのために、各所をきれいに使いやすくしていただきました。今のきれいな状態を長く保っていけるように、丁寧に使うことはもちろん、日々の掃除もしっかり行っていきます。記念事業の一環である記念誌も、何度も何度も校正を行い、いよいよ完成です。役員の方、学校の先生、卒園生であるふるさとの方、倫理法人会や国際箸学会の方、職員、児童の思いが詰まった一冊です。記念誌制作にあたり、昔の「おもいやり」や創立30周年の時の記念誌「愛の花園」、創立50周年の時の記念誌「大きな家族」を手にする機会がありました。当時の愛育園の子どもたちの様子、先生方の思いを垣間見ることができたように思います。今回の記念誌の巻末には、資料として愛育園の20年のあゆみや歴代役員、歴代職員の名簿が掲載されています。20年のあゆみは、すべて園長先生にお任せしてまいりましたし、歴代名簿作成も本来ならば庶務の担当すべきところなのですが、倉庫にある過去のたくさんの資料の中から、過去の議事録や職員台帳などの記録を探し出して調べてはみたものの、昭和20年代あたりの明確な資料がなかなか見当たらず、想像以上に悪戦苦闘しました。そこで理事長先生に教えていただき、そして園長先生も自ら第4代園長の大平先生のお宅を訪ね、大平先生が勤務されていた当時の職員を教えていただくことができました。おかげさまで、私一人では無理だった歴代名簿もこうして完成させることができました。この場をお借りして御礼申し上げます。皆様、ご協力ありがとうございました。こうして名簿を作成してみると、勤務年数はそれぞれですが、200名ほどの職員が、初代園長藤本幸邦先生の理念のもとで愛育園に携わってきた70年の重みを感じることができました。私が園内保育補助として初めて愛育園に来た5年前は、幼児さんも10人以上いましたが、幼児減少により2年前か

<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

ら園内保育もなくなりました。現在、庶務会計として任されて1年経とうとしています。まだまだ勉強しなければならないことが多く、一つ一つの書類の処理をこなしていくことが精いっぱいの日々ですが、5年後、10年後と長く勤められるように今後も努力しながら仕事に励んでいきたいです。

70周年記念式典中高生発表

まごころ 渡邊梓

11月11日に愛育園創立70周年の記念式典があり、多くのお客様が園に来園されました。この式典に向けて、約2週間前から中高生と職員が式典で発表する扇の演舞の練習をしてきました。扇の演舞は2年前に愛育園運動会で行ったこともありましたが、その時とは振り付けとリズムも全て異なり、練習を始める前は大変かな、と思っていましたが、練習時間も少ない中で、職員が教えるだけでなく、子ども同士で教えあう姿も見られました。次々と覚えていく姿、また、どんどん先に進もうよと言うようなまなざしに正直驚きました。毎年、愛育園祭で新しいパフォーマンスに挑戦していますが、子ども達からは毎回、「かっこいいね」「やってみたい」と言う発言も多く聞かれ、とても前向きです。初めて挑戦するものでも、「出来ない」「嫌だな」など後ろ向きな発言をする人はいません。頑張っている人を冷やかす人もいません。困っている人には自然と声を掛けられる人がたくさんいます。私は、中高生の『みんなで頑張ろう』という雰囲気大好きです。愛育園のみんななら出来ない事はないのではないかと毎回、こうした発表を通して感じます。今回の記念式典のように多くのお客様を迎えての発表というのはみんな初めてでしたが、堂々と前を向いて踊る姿に、大きな拍手を頂きました。振りを間違えたことなどは問題でなく、精一杯やり切ったという事実が全てだと、その時のみんなのやり切ったと達成感に満ちたような、誇らしげな表情を見て思いました。これからも、行事を通してだけでなく、日々の生活の中でも自分に出来る事を精一杯取り組むなど、やり切る経験をたくさんしてほしいなと思いました。

『70周年式典』

まごころ保育士 竹内早季

この度は、愛育園創立70周年おめでとうございます。先日、盛大に70周年式典を迎えることができました。子どもたちも、式典に向け、日々発表練習や記念誌の準備など、様々なところで協力してくれていました。入場門の虹のアーチでは、小学生たちも夕方宿題を終わらせたあと、みんなでお花紙を折ってたくさんのお花を作ってくれたり、中高生も机や椅子を運んだり、式次第を折りこんだりと積極的に準備に関わってくれました。今回、私自身は中高生と一緒に扇子の演舞発表に参加しました。約2週間の夜の練習に毎日参加し、子どもたちと必死になって振付を覚えました。元々私はダンスが苦手なので、いつも気後れしてしまうのですが、子どもたちを見ていると毎回楽しそうに練習に励んでいるので自然と頑張ろうと思えます。まだまだ子どもたちに引っ張られているようでは職員としては未熟だなと感じます。ただ、毎日みんなと練習して少しずつ形になっていくのを感じてだんだんと大変さよりも楽しさを感じられるようになりました。当日も、かなり緊張しましたが、今までで一番迫力ある発表がで

(平成30年12月10日発行 月刊「円福」508号付録 昭和52年5月25日第三種郵便物認可)

きたのではないかと思います。子どもたちも終わったあとの表情が晴々していました。みんなで一つのことをやり遂げる達成感は普段ではなかなか味わう機会も少ないので、この経験は私にも子どもたちにと



とっても得難い経験だなと思います。また、子どもたちの式典の感想を作文に書いてもらいましたが、「こんなにたくさんの人が愛育園を応援してくれていたんだ」と驚いてる児童もいました。普段見えないところで大勢の方々から支えられていることに気づくことができ、これからの生活の励みにしてもらえればと思います。私も職員として、今後も支えていただいていることに感謝しつつ精進していきたいと思いました。

円福寺愛育園70周年記念式典

あおぞら 山田 忍

11月11日、円福寺愛育園70周年記念式典があり、大勢のお客様に御来園して頂きお陰様で盛大に執り行う事ができました。この記念すべき年に職員でいられること、70周年記念式典に参加出来たこと大変うれしく、そして誇りに思っております。自分は小学生の発表を担当しました、内容は「COSMOS」と「大切なもの」という合唱曲の発表でした、始めの頃は小学生全員が集まりいざ練習を開始しても声もあまり出ない、唄う姿勢ややる気もそれぞれバラバラ、本番まであまり時間のない中で「本当に大丈夫なんだろうか」と不安になりました、しかし、子ども達の力というのは凄いもので本番に近づくとつれ段々一つになっていく雰囲気が伝わってきてとても頼もしく思えました。そして、本番まであと数日、という所でアンコールがきた場合の曲を追加しようという事になり急遽発表内容の追加が決まりました、自分も子ども達もあと数日しかないというプレッシャーの中で練習をして迎えた本番では今までで一番大きな声で素晴らしい発表ができたと思います、改めて子ども達の力を実感させられました。子ども達の一つにまとまった時のパワーは物凄いものがあります、その力を信じまた次の行事に行かせていければいいなと思います。

円福寺愛育園創立70周年記念式典 小学生の発表

まごころ保育士 加藤ゆかり

今年度は、円福寺愛育園が創立70周年を迎えるということで、11月11日に記念式典が行われまし



た。愛育園祭に引き続き、この式典でも小学生の発表の担当をやらせて頂きました。今回は、「♪大切なもの」と「♪COSMOS」の2曲を選曲しました。どちらも子ども達が歌ったことのある曲でしたが、久しぶりに歌う曲だったので、自信も無く、歌詞も曖昧で、少々心配もありました。記念式典当日は、150名近くのお客様が来る予定できっと緊張してしまうから、今から大きな声で歌えるように練習しよう、と話をすると、それを境

に全員が大きな口を開けて、大きな声で歌えるようになりました。そんな子ども達の様子を見て、練習を始めた頃の心配は吹き飛び、子ども達なら絶対素晴らしい発表をしてくれるはず、と本番がとても楽しみになりました。当日は想像通り、たくさんのお客様が来園してくださいました。子ども達に「緊張している？」と聞くと、「そんなにしていないよ！」という返事が返ってきて驚きました。私より本番に強いな、と感心してしまいました。発表は、練習の成果を出し切ることが出来、大勢の方に「とてもいい歌声だったよ。」「素晴らしい演奏だったよ。」と声を掛けて頂き、子ども達も嬉しそうな表情を浮かべていました。70周年記念式典にふさわしい発表が出来たのではないかと思います。

あおぞら S.N

70周年で歌の発表をしました。きんちょうしました、とてもきんちょうしました。中学生の発表はすごくすごかったです。

おあおぞら R.N

今日、70周年がありました。話が長くてたいくつだったけどがまんできました。発表では、きんちょうしたけど楽しく歌えてよかったです。お弁当もとてもおいしかったです、じゅんぴから片付けまでみんなががんばっていてよかったです。

あおぞら Y.Y

11月11日に、70周年しきてんがありました。話がたくさんあったけど、しずかに話さきけてよかったです。小学生の発表では、大きな声で歌えてよかったです。アンコールでは、よそうしていたので愛育園祭の時に歌った曲をうたいました。まちがえずにうたえてよかったです。

『70周年式典』

Aさん

愛育園ができて70周年になります。私はまだ10か月くらいしかいなくて、まだ愛育園のことを分からないこともあります。でも70周年式典に出て、愛育園ってすごいなって改めて思いました。70周年

式典に大勢の人が来てくれました。愛育園をこんな大勢の人が応援してくれてすごうれしかったです。高2のRくんが意見発表をして将来の夢とかいろんな話を聞いて、堂々と話していて、いろんなことに頑張っているってすごいし、かっこいいなと思いました。扇子の練習でも練習からみんながひとつになって頑張って、何回も間違えても練習を繰り返してみんなにとっては当たり前じゃんって思うかもしれないけれど、本当に心からすごいなって思いました。5年後も10年後も、その先もずっと変わらない愛育園でいてほしいです。

『70周年式典がありました』

Mさん

前から、記念誌にのせる作文を書いたり、今年はタイムカプセルに10年後の自分への手紙を書いたりしていろいろ準備を頑張ってきたので、とても良い気持ちで式典をむかえられました。たくさんの来賓の方々や、卒園生の方も来てくれました。式典中は話が長いなあと思っていたけど、意見発表を聞いていたら、とても良いことを言っていたので、すごいなと思いました。中高生の発表では、せんすを使ったパフォーマンスをやっていて息が合っていてきれいでした。昼食を食べている途中に小学生の発表をしました。発表した歌は「コスモス」と「大切なもの」です。歌詞を忘れずに歌えてよかったです。アンコールには、「また会える日まで」を歌いました。練習での成果を発揮できて良かったです。

楽しく走ろう！MATSUMOTO リレーマラソン

あおぞらホーム 近藤誠志郎



11月18日(日)松本市の信州スカイパーク陸上競技場で行われた「第二回楽しく走ろう！MATSUMOTO リレーマラソン」に参加してきました。5月に参加した5時間リレーマラソンは時間内にどれだけ長く走れるかを競うものでしたが、今回のリレーマラソンは一周約1.5kmを28周、合計42.195kmをチームでどれだけ早く走り終えられるかを競うものでした。あおぞらの中学、高校生、職員とで2チーム、まごころの中学、高校生、職員とで1チーム、小学生と職員で1チームの合計4チーム

で参加させて頂きました。3週間前から練習を始め、11日にあった70周年記念式典の発表の練習と重なり子どもたちにとって忙しい毎日になりましたが、いつものごとく子どもたちは弱音を吐くことなく毎回の練習で全力を尽くしてがんばる姿がありました。春の時と同じコースで練習してきましたが、半年がたつとタイムが30秒ほど縮まっている子もいて子どもの成長の早さを感じました。大会前日に各チームに分かれてミーティングをした時もそれぞれが高い目標を定め、チーム一丸でがんばろうという意

<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

気込みがありました。大会当日は雨も予想されましたが、子ども達の願いが届いたのかすっかりと晴れてくれ、絶好のリレーマラソン日和となりました。陸上競技場内がタスキ渡しゾーンとなっており、初めて陸上競技場に入る子どもたちも多く、アップしている段階から意気揚々と走っていました。いざレースがスタートすると走者になった人は最初から最後まで全力を尽くして走り抜け、それ以外の時でもリレーゾーンまで走ってくる走者をみんなで応援しており、自分だけが良ければいい、自分のチームさえ良ければいいといった考えが誰一人なく全員が一体となっている雰囲気がそこにはありました。中には自分も走り終わり疲れているはずなのに率先してタイム計測をする子や走り終わった人に駆け寄り飲み物を渡している子もあり、子どもたちの思いやりの心を見ることができました。そういった影の支えもあり、結果的にあおぞら中高生チーム1が男子の部で3位、まごころチームが女子の部で1位となりました。また、あおぞら中高生チームの2チームはそれぞれ目標のタイムを大幅にクリアしてのゴールとなりましたし、小学生チームは男女混合の部での参加で他のチームのほとんどが大人で構成されたチームでありながらも21チーム中15位と大健闘の結果となりました。タスキに込められた思いが全員に伝わっている、そんなリレーマラソンになったと感じます。今後もリレーマラソンや様々な行事を通じ、一人では得ることのできない達成感をみんなで味わっていきたくと思います。今年ももう一カ月となりました。子どもたちと笑って新年を迎えられるよう日々の業務に努めていきます。

松本リレーマラソン

まごころホーム 保育士 有賀真知

11月18日に松本リレーマラソンに参加しました。今回のリレーマラソンは、42.195kmを4~15名でタスキを繋ぎながらどれだけ速く走り切れるかという大会で、愛育園は今年初めて参加しました。本番までの2週間は、週に4日ほど夕方にマラソン練習を行いました。5月に練習した時よりも日が短く、気温も低い中でしたが、誰一人として文句を言ったり手を抜いたりせず、日々記録を更新できるように一生懸命走っている様子がうかがえました。本番、まごころの中高生と職員チームは、前回大会の女子の部で優勝したチームの記録を上回るべく、42.195kmを4時間で走り切ることを目標にしていたのですが、一人一人が練習以上のペースで1周を走り切り、なんと3時間34分で完走することができました。特に、外周コースから競技場内に戻り、ゴール地点までトラックを約300m走るコースでは、全員が最後の力を振り絞り、全力疾走で他チームをどんどん追い抜いていました。また、愛育園は4チーム出場しましたが、全員が自分のチーム以外の子にも、大きな声援を送る姿が見られ、愛育園全体が一丸となって走り切ろうという雰囲気がありました。最後まで精いっぱい、力の限り走ることができ、また他児のことを心から応援し、お互いに称え合うことのできる愛育園の子どもたちは本当に素晴らしいと感じました。子どもたちが練習から本番まで、必死になって取り組むことができるこのリレーマラソンに、また機会があればぜひ参加したいと思います。

(平成30年12月10日発行 月刊「円福」508号付録 昭和52年5月25日第三種郵便物認可)

まごころホームだより

まごころホーム 糸賀 かなえ

今月は、小学校で音楽会があり、どの児童もそれぞれのクラスや学年の合唱や合奏をととてもよく頑張っていました。学校やホームでの練習の成果もあり、みんな堂々とした姿で発表をしていました。また、小学校や中学校で参観日があり、中学校や高校では期末テストが行われました。学習に関しては、日々行っていますが、テスト前ということでテストに向けて計画を立て、少しでも点数を上げようと、それぞれ一生懸命学習に取り組む姿がありました。点数が上がるだけでなく、継続する姿勢が大切であることを子どもたちの姿から学ばせてもらいました。他には、11月11日に70周年記念式典が執り行われました。式典には、日頃、愛育園を支えてくださっている方々がたくさん来て下さり、中高生は旗の出し物、小学生は合唱を披露しました。いろいろな予定もある中、旗や合唱の練習にも一生懸命取り組み、力ある旗の演技ときれいな歌声のととても良い発表をすることが出来ました。来月には、東京ディズニーランドへの旅行が予定されており、子どもたちは連日、ディズニーランドの雑誌を見ながらとても楽しみにしています。1年間頑張った子どもたちにとって良い思い出になれば良いなと思います。

調理室だより

宮沢 まき江

いよいよ秋も深まり、冬到来の時期となりました。

寒さの中でも子供達は元気で毎日を過ごしています。

11月11日には大変大きな行事「愛育園70周年記念式典」が晴天の中、盛大に執り行なわれました。とても心に残るすばらしい1日となりました。

式典後、職員・子供達全員そして卒園生5名参加のもと食堂にて慰労会が行なわれました。そこでは卒園生が園を出てからの気持ちをありのままに話しをしてくれ、歯を食い縛りながら、苦しい時こそ愛育園での生活のありがたさの実感を痛切に語ってくれ、子供達は釘付けされたかの様に真剣に聞きっていました。本当の世の中の厳しさに向き合っている彼等に目頭が熱くなり、込み上げる思いで大きな成長に心から拍手するひとときとなりました。11月は新しい子供を迎え、今までにない18日~21日まで4日連続の誕生日メニューとなりました。うどん、赤飯、天ぷら、肉料理、デザート等盛り沢山のリクエストに答え、作らせて頂きました。25日一円福杯があり、おにぎりを200個程作りました。26日一小学低学年のスケート教室でお弁当を作らせて頂きました。これから本格的な寒さに打ち勝てる食事作りに邁進していこうと思います。

